

### アフリカの開発を後押しする 場をつくりたい

「第5回アフリカ開発会議（TICAD V）」に向けて準備を進める JICA アフリカ部。田中香織さんはアフリカ勤務の経験を生かし、JICA の支援方針のまとめ、サイドイベントの運営、広報活動などに取り組んでいる。

#### 移民問題を通して 途上国の現実を知る

貧困が原因で、母国を離れなければならない人がいる。大学時代、アメリカに交換留学した時、カリブ海の周辺国から移住してきた人たちと出会いました。その一人、ハイチ出身の同級生に話を聞くと、インフラや医療、教育などのサービスの整備が遅れている、貧富の差も拡大する一方だと。そんな国の事情から、移民してきたと言っていました。年は変わらないのに、私とはまったく違う状況の下で生きていることにショックを受けました。本や資料ではなく、直接本人からその国の実情を聞いたことで、開発途上国のことをもっと知りたい、国際協力を携わりたいと思い、JICA に就職しました。

#### 悔しさをばねに

#### 現地に届く支援に打ち込む

5年目にコートジボワール事務所に移動になったのですが、着任後すぐにクーデターが発生しました。現地の同僚や友人が職を失う姿を目の当たりにしながらも、情勢不安のために新たに事業を行うことができず、とても悔しい思いをしました。

この時に実感したのは、日々の収入を得

ることの重要性です。その後に配属された人間開発部では、この教訓を生かして、雇用を生み出すために職業訓練のプロジェクトに力を入れました。

内戦が終わった南スーダンへの支援を担当したのですが、いざ現場に行ってみると、紛争中の約20年間、先生がいながらも、きちんと訓練が行われていない状態でした。そこで現地政府に掛け合い、まずは訓練の質を向上させる取り組みから着手することに。先生たちは日本人専門家の指導を通じて技術を学び、自信をつけ、見違えるように熱心に訓練に力を注ぐようになりました。また、調理や裁縫、建築技術など取入に直結するコースを設置したことで、卒業生からも「自分も仕事ができるようになった」、「将来の夢が持てるようになった」と言ってもらえて、とても充実感がありました。

#### アフリカの人々が 幸せになれるように

現在は、アフリカ部で6月の「第5回アフリカ開発会議（TICAD V）」に向けて準備を進めています。TICAD は今後5年間のアフリカ支援の方向性を決める重要な会議。JICA としてどんな支援ができるのか、会議の場できりと方針を

打ち出せるよ

う、アフリカ各

国の JICA 事

務所と協力して

事業計画をま

めています。そ

れぞれの意見を

集約するのは一

苦労ですが、ア

フリカの人々の

未来を左右する

ものなので、と

ても責任を感じ

ています。

また、本会議と並行して開催される JICA のサイドイベントの運営管理や、TICAD やアフリカを身近に感じてもらえるよう広報活動にも力を入れています。今の部署ではデスクワークが多いのですが、すべてはアフリカの開発のため。過去に出会った現地の一人一人の顔や生活を思い浮かべながら、日々の業務に取り組んでいます。



セネガルでアフリカの人材育成について話し合うワークショップに参加した田中さん（手前右から3人目）



JICA アフリカ部  
計画・TICAD 推進課  
企画役

田中 香織  
TANAKA Kaori

大学卒業後、1995年にJICAに就職。派遣事業部（当時）、フランス事務所、コートジボワール事務所、総務部、人間開発部、ブルキナファソ事務所を経て、2012年4月から現職。



コートジボワールで出会った現地の少女たちと